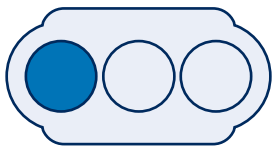

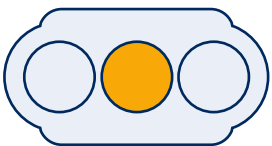



シュローダー・スナップショット

マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し

2024年5月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
企業決算に対する期待感や流動性などが支援材料になるとみて、強気の見通しを維持しています。	米国債券に対する見方をやや引き上げたほか、一部の国や地域においてはバリュエーションの観点で魅力的な投資機会が存在すると考えます。全体として、見通しを中立に引き上げました。	米ドル建て社債を筆頭に割高な水準にあると考えます。一部企業のファンダメンタルズには悪化の兆候が見られますが、流動性や利回り水準を踏まえ、中立の見通しを維持しています。	製造業の景気サイクルが好転していることは引き続き支援材料になると考えますが、直近数カ月間でコモディティ市場が力強く上昇したことを踏まえ、見通しを中立に引き下げました。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 経済成長が引き続き堅調であることを踏まえ、強気の見通しを維持しています。
	欧州	 欧州経済は回復基調にあり、欧州株式にとって支援材料になると考え、強気の見通しを維持しています。
	日本	 企業ファンダメンタルズ、マクロ環境が共に良好であることから、強気の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	 中国人民銀行による刺激策が不十分であるほか、米国での利下げ時期が後ずれするとの見方もマイナスに影響する可能性から、中立の見通しを維持しています。
	新興国	 中国経済は引き続き脆弱性を見せており、特に不動産セクターは低迷しています。新興国株式市場における中国のプレゼンスの高さを考慮し、全体としても中立の見通しを維持しています。










最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社




金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号




加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

Schroders

資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 先月と比べ見通しはやや改善したと考えますが、インフレが継続するリスクや、米国財政に対する中長期的な懸念から、依然として弱気の姿勢を維持しています。
	欧州 (ドイツ国債)	 欧州のインフレは低下基調を維持しています。欧州中央銀行(ECB)が6月に利下げを開始する可能性が高まっていますが、この見方は十分に市場に織り込まれているため、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (現地通貨建て)	 ソフトランディングを達成した場合、米ドル安、新興国の金利低下につながり、支援材料となる可能性があります。ただし、米国のインフレと金融政策の不確実性を考慮し、中立の見通しを維持しています。
	インフレ連動債	 インフレ再加速に対するヘッジになることから、強気の見通しを維持しています。
投資適格社債	米国	 割高な水準にあるほか、一部企業のファンダメンタルズには悪化の兆候が見られます。ただし、流動性や利回りなどを踏まえ、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 欧州ではデフォルト率が上昇しており、企業が「満期の壁」に直面していることを示唆しています。ただし、欧州経済は回復傾向にあり企業業績の改善が期待できることから、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (米ドル建て)	 企業ファンダメンタルズは良好ですが、バリュエーションの観点で割高とみて、中立の見通しを維持しています。
ハイイールド社債	米国	 米国投資適格社債と同様、企業ファンダメンタルズに悪化の兆候があるものの、良好な流動性や利回り水準を踏まえ、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 米国のクレジット資産対比で魅力的なバリュエーションを提供しているほか、ECBの利下げ期待を踏まえ、強気の見通しを維持しています。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 中東情勢の悪化を巡るリスクプレミアムは沈静化し、原油相場はレンジ内での取引となっています。中立の見通しを維持していますが、6月初旬に控えるOPEC+の会合を注視しています。
	金	 需要が旺盛であることを踏まえ、強気の見通しを維持しています。
	産業用金属	 足元、需要が増加するとの見方が市場コンセンサスとなり、産業用金属価格は上昇しました。強気の見通しを維持していますが、価格水準には注意を払う方針です。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 金利差が米ドルの上昇を支えると考えます。米国でインフレが継続するリスクがある中、各国中銀が先んじて利下げを開始した場合、さらなる米ドル上昇につながると考え、強気の見通しを維持しています。
	ユーロ	 欧州経済は引き続き回復基調にありますが、金利差が広がる可能性から中立の見通しを維持しています。
	日本円	 為替介入の効果は限定的であり、円高を招く材料が欠けることから、見通しを中立に引き下げました。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点できちんとする範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー-plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。



創業から200年超、日本に根ざして50年。
 卓越した資産運用サービスをお届けするため、
 私たちの視線が向かうのは、いつもひとつ先の未来。
 今また新たな投資機会の発掘に向け、
 シュローダーは動き出しています。